

会員の声・近況

正道寺 勉 日本工業大学
工学部システム工学科

今年度の卒研究生の中に「知識工学」関連のテーマで卒業研究を行ないたいと申し出た学生がいた関係で、自分の専門外の分野を勉強する羽目になった。悪戦苦闘の1年ではあったが、知識工学をいろいろと勉強するうちに自分の研究分野のアルゴリズムと非常に近い考え方を取り入れていることがわかり、大変参考になった。(人工知能における研究分野の1つに「問題の解決」があるが、この問題を解くにはヒューリスティック・アプローチが重要であることを15年も前に Nils J. Nilsson が述べている)

フレーム理論やメタルールなどの考えは数理計画のアルゴリズムに適用すれば、より効率の良いアルゴリズムを構築する可能性を秘めていると思われる。たとえば、人間の思考過程をくわしく分析することによって、最適化問題を解析するためのヒントが得られるかもしれないと思うのですが、アナログの思考をデジタル計算機で扱えるようにするには無理があるのでしょうか。

最後に一言。1つの分野にとじこもって、アレコレ悩んでいるより、たまには他の分野に首を突っ込んでみることも必要であるということを感じた1年であった。

岩本 誠一 九州大学
経済学部経済工学科

昔も今も相変わらず動的計画(DP)を勉強しています。学部では「経済モデル解析」・「経済数学」を講義しています。'86年4月からOR研究会「最適化とその応用」の幹事を務めさせていただいています。九州各地から広く講演者を募っています。講演希望者は主査の児玉正憲教授または小生までご連絡ください。

'85年はカナダ滞在中、5月にミシガン大学での第1回ベルマン会議に参加・発表しました。阪大工の杉山博先生は第2回('86年6月ジョージア工大)も出席しました。先生によりますと、第3回は1年おいて'88に開かれるそうです。研究分野としては、DPの理論的な面—動的計画の3面(逆・反転・双対)鏡理論—に興味もっています。九大経済学部の経済工学科も10周年を迎えて、「経済工学シリーズ」を九大出版会から出すことになり、その最初に拙著「動的計画論」を本年3月出版予

定です。この中には、DPの、(1)本質的な面(原理)、(2)技術的な面(方法)、(3)感覚的な面(感性)、(4)理論的な面(理性)はもちろん、LP問題の多様な解法(図解法、DP法、消去法、各種単体法、クーン・タッカー法)や逐次(交互)ミニマックス化なども含んでいます。興味のある方は一読のほどをお願い申し上げます。宣伝ばかりで大変恐縮です。

根本 敏則 福岡大学経済学部

福岡に住んで1年になります。他の地方都市同様、朝夕の道路混雑が激しく閉口しています。

日本の運転免許保有者5,000万人として、そのうち5分の1が混雑によって1日5分間、時間をロスした場合、時間評価値を仮に1分50円とすると、1年間(365日)に約1兆円の損失になります。

私は社会資本ストックの経済効果計測に関心があります。行政の計画過程においてより効果的な代替案を選択するために不可欠と考えるからです。しかし、計測にあっては事業の実施から経済活動の拡充に至る一連の因果関係を同定する必要が生じます。ここで言う因果関係とは、たとえば「事業の実施→社会資本ストック量の増加(道路の場合では供用延長など)→公共サービス水準の向上(同、旅行速度の迅速性、確実性など)→直接経費の節約(同、運転手人件費、安全在庫量の減少など)→経済活動の拡充(営業圏域の拡大、レクリエーション活動の広域化など)」のようなものです。

ところで、どなたか私に、財政学、土木工学、交通工学、経営学を教えていただけませんか。

田口 澄也 神奈川大学
工学部工業経営学科

大学へきて4年余りたつが、主に学科の2,3年生を対象に電子計算機の実習を指導してきた。

当大学には、全学的な情報処理センターもあるが、学科内にも教育・研究用ということで、現在、ミニコン1台、端末機12台とラインプリンター1台が設置されている専用実習室がある。

実習は、17~18名を1班とし、2回に分けて、延べ10時間ぐらいたつて費やし、フォートラン言語を用いて、各自与えられた課題をプログラミングするよう計画が立てられている。

当初、ミニコンで実習をはじめた時は、より多くの学

生が自由に実習できるようにとOMR（光学式マーク読取装置）を用いたパッチシステムを採用したが、昭和59年に実習の内容充実と効率アップをはかるため、端末機を用いたオンラインシステムに変更した。

情報化時代の中、学生の卒業研究や就職状況からみても大学におけるコンピュータ教育は、ますます期待され、重要視されている。

今後は、新しい言語、たとえばC言語なども取り入れ、より時代のニーズにあった内容にしてゆきたいと考えている。

恒川 治正 東芝中部システム開発(株)
技術第1部

去年の3月に、大学卒業後、約3年間勤めた薬品会社を退職しました。なぜかと申しますと、最初は、電算機導入の作業をしていましたので、結構やりがいがあると思って仕事をしていましたが、いざ導入が終り本番に入ると、オペレーションと出力された帳表の整理が作業のほとんどをしめてしまい、徐々に仕事にたいして不安が

つのも、また、他の要因もあり、ついに転職にふみきりました。

現在はと申しますと、去年の4月に東芝中部システム開発㈱に入社しまして、9月まで新入社員研修を受け、10月よりOJTに入り、役員室OAシステムの仕事をしております。

去年の4月より、一から出直し、一人前のSEになれるように努力するとともに、少しでも良いシステムを作れるように、新しい会社の皆様ととりくんでゆきたいと思っております。また、前の会社とは違い、仕事とORがまったく無関係の仕事ばかりではないと思います。

会合記録

研究普及委員会	2月2日(月) (7)
庶務幹事会	2月5日(木) (10)
編集委員会 (OR誌)	2月6日(金) (9)
表彰委員会 (ソフト賞)	2月12日(木) (8)
表彰委員会	2月17日(火) (8)
主査会議	2月25日(水) (13)

編集後記▶この冬は数年ぶりの暖冬、北国の積雪も予想外に少なく、昨年12月は全国平均気温が前年比 2.2℃も高かったようです。しかし、今年に入って気温の高下も激しく、国内外の諸情勢の変動を思わせるものがありますが、例年より渡り鳥の去来、開花前線の北上も早いようです▶いよいよ春、新年度の開始とともに皆様もそれぞれの行事でご多忙のことと存じます。今年30周年を迎えたOR学会でも、数々の記念事業が予定されております。本誌でも、6月号で30周年記念特集号「ORの図解」を組むべく着々と準備を進めております。ご期待ください

い▶特集「板取り」—これはOR誌としては初の企画特集でしたが、いかがでしたでしょうか。今月号に登場した業種に限らず、さらにいろいろの分野で応用が可能であり、これからの発展が期待できそうです▶また、家庭内でもビスケットづくり等々。しかし、Do It Yourselfの段取りの中で、木材から板目に留意した板取り、布地の裁断となるとむずかしくなります。体験にもついたアイデア等がありましたら「ミニミニOR」にもぜひご投稿を。(K)

オペレーションズ・リサーチ

昭和62年4月号 第32巻 第4号 通巻316号

代表者 吉山博吉

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
(電話 03-815-3351~2) 〒113

編集人 柳井浩

発売所 株式会社 日科技連出版社
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 850円(郵送料含)年間予約購読料 9600円(郵送料含)

●本誌への広告お申し込みは明報社(571-2548)、日経弘報社(563-2241)へ